

◎ SEE (Sexuality Education&Empowerment) 主宰・対話型ワークショップ報告

こんなとき、どうする？ どうみる？ 性にまつわる様々なトラブル ～学校現場での被害・加害を中心に～

10月5日(土曜日)SEE(Sexuality Education&Empowerment)主宰の対話型ワークショップが鹿児島市の鹿児島市医師会館で開催された。10:00から12:00まで、支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、「様々な性の問題をどう捉えるか」、児童生徒の性的な発達段階をふまえて「遊びと暴力の違いを見極める視点」を共有することを目的としたセミナーが開催された。

はじめに

学校で起こる性被害や性問題行動は、珍しい出来事ではない。いまや「よくあるトラブル」の一つになっている。

ところが、こうした性的なトラブルへの対処をする際に生じるのが、教職員間の認識のズレ、問題を懸念する教職員と、「たいしたことではない、おおごとにすべきではない」と思う教職員の間で、判断がブレて、初期対応が遅れる事例がみられる。

今回のSEEのセミナーは、ワークショップが中心で、支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、「様々な性の問題をどう捉えるか」、児童生徒の性的な発達段階をふまえて「遊びと暴力の違いを見極める視点」を共有することを目的としたセミナーであった。

参加者は講師を含めて31名、ワークショップは2部構成。それぞれの講師によるレクチャー後、1組4名のグループに分かれ、グループワークが行われた。

レクチャー1 講師：野坂祐子氏

大阪大学大学院人間科学研究科の准教授で、臨床心理士・公認心理師の野坂祐子氏が最初の講師。学校や児童福祉領域での性的問題に関する臨床・研究を行い、児童相談所や刑務所での治療教育に関するスーパーバ



イザーである野坂氏は、主に「境界線(バウンダリー)についてのレクチャーを行った。

「境界線は、状況や関係性によって変化する」ことを理解することが重要であるとして図1で説明。

詳細な内容紹介は、紙数の関係もあって難しいので、参加者の研修後のアンケートを紹介する。

境界線(バウンダリー)

- 物理的境界線：からだ、距離感、持ち物、空間など
- 心理的境界線：こころを傷つける、考えを尊重しない
- 社会的境界線：規則・法律、交通ルール、マナーなど

- ◆ 境界線は、状況や関係性によって変化する
- ◆ 境界線を越えるときには、相手の承諾が必要

境界線を破ることは「暴力」



図1

▶アンケート1

全身を耳にしてインプットに努めました。境界線の大切さ、ここが肝で様々な困り事や犯罪につながっていくと思いました。子どものうちに境界線の大切さを頭と身体で理解したら、悲しむ子ども、人々が少なくなるのでは？ と。自分の常識を常に疑うことはやはり貴重なことです。これこそ本当の学びだ!! と久々に思える充実した対話型ワークショップでした。もっと深く知りたいことばかりで興奮しました。

▶アンケート2

自分とは何か？ バウンダリーは？ 自分の価値観とは？ をよく考えたいと思いました。とてもためになる内容をありがとうございました。

▶アンケート3

大人のとらえ方、子どものとらえ方（性的なスキンシップは人間関係を築くための物など）その違いは想像もしていなかった情報でした。知識として学ぶことができてとてもよかったです。同じ班のメンバーの方が良い方ばかりでとてもよかったです。

レクチャー2 講師：吉田博美氏

臨床心理士・公認心理師の吉田博美氏は、「わたしがなんとかしなくっちゃ」という場面での様々な心理反応について触れられた。吉田氏は、性暴力・性虐待被害者の心理療法が専門。

吉田氏は、「支援者によくあらわれる反応」を図2で解説された。

また、「トラウマ体験に触れた後に支援者によく生じる反応」について、「考えやイメージ」、「気持ち」

支援者によくあらわれる反応



考えやイメージ: 世の中、周囲、自分、ものごとに対する考えが変わる

気持ち: 不安などのアラームがなりやすくなる

からだ(自律神経系の活動): 緊張などが身体に現れる

行動(表情や行動などの筋活動): 恐怖や不安を避ける行動をとる

組織: 職場や環境にも影響が現れる

安全でないと感じる
 認知的
 無力
 希望のない
 過覚醒
 断片化
 圧倒された
 混乱した
 士気が落ちた

武蔵野大学心理臨床センター作成
 トラウマに対する態度を見直して安心して健全な支援を行うためのワークブックより

図2

トラウマ体験に触れた後に支援者によく生じる反応

考えやイメージ: 世の中、周囲の人、自分、ものごとに対する考えが変わる

トラウマの話が頭からずっと離れない 世の中は危険だ 人は信用できない 自分は無力だ 自分にも起こるのではないか 絶対に解消しなければならない 支援者に向いていない 自分だけ楽しんで幸せになってはいけない 自分を苦しめようとしている 自分を傷つけようとしている 馬鹿にされるかもしれない など

気持ち: 不安などのアラームが鳴りやすくなる

恐怖 嫌悪感 無力感 強い衝撃をうける 怒り 万能感 非現実感 不安 同情 気分が落ち込む 被害者責め 自責感 安堵(自分でなくてよかった) 好奇心 前向きになれない など

武蔵野大学心理臨床センター作成
 トラウマに対する態度を見直して安心して健全な支援を行うためのワークブックより

図3

を図3のように整理している。吉田氏は、「自分の反応に気づく」ことが大切であると強調された。

▶アンケート4

同じ場面が起きているのに関わる大人によって見方が違うという話はとても納得しました。この部分だけでも、学校の先生たちと共有できたら支援する側が対応を一致させていけると思いました。

▶アンケート5

普段、性問題の支援等の現場で仕事をしている者ではないのですが、わかりやすく聞けました。性暴力のいろいろな記事を読む中でモヤモヤと分からなかったことが今日の講義やグループワークで得られた視点で考えるとよりすっきりするような気がしました。

▶アンケート6

今日の話聞いて、学校の研修でやってほしいくらいの内容でした。自分自身の性に対する価値観であったり、考えであったりを振り返る機会になりました。今関わっている生徒へ向き合うことができそうです。いろんな人とつながり、一人で頑張りすぎず、一歩ずつやっていこうと思います。

まとめ 東 優子氏

東氏は、大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授で、WAS（世界性の健康学会）役員・性の権利委員会副委員長。ハワイ大学大学院でソーシャルワークを学び、大学では社会福祉士養成課程を担当している。

支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、「様々な性の問題をどう捉えるか」を考える基本



となる「性の健康と権利」という視点から、セミナーをまとめられた。

▶アンケート7

自分の見直し、新しい視点、勉強になりました。3人の先生方の話をもっともっと時間をかけて伺いたいと思いました。グループワークももっと深められたら有益と思いました。

▶アンケート8

短い時間でたくさんの学びがありました。もっと時間があつたらと思いました。自分自身が常に学ぶことが必要だと感じました。また機会がありましたら、セミナーに参加させてください。

▶アンケート9

凝縮された時間でしたが、できたら一日かけてしてほしい。講義もゆっくり受けたかったし、グループの

対話も時間が欲しかった。消化不良感がすごいです(笑)。ここまで思える・感じられる研修はレアでした。

▶アンケート10

どのテーマも興味深かったです。野坂さんの話は性に関わる者へのベースになる知識でよかったです。グループワークは他職種の人の考えが知れたのでよかったです。ケイパビリティについては時間が無い中ありがとうございました。もっとくわしく、次に機会があればなあ。

▶アンケート11

学校の中で働くばかりなので、様々な目線から考え方を学びとてためになりました。専門的な知識もなく、学校内で統一されない状態で私の学校では性教育を保健体育の先生が各クラスに行っています。また授業内だけでなく、生徒と関わる中で性の問題は少なくありません。現場で対面する問題に対し教員研修など知識を得る機会が欲しいな、必要だなと感じました。現場に今日学んだことを持ち帰りたいと思います。ありがとうございました。

(アンケートの文責・編集部)

アンケートにみられるとおり、凝縮されたセミナーで、次回も参加したいという声が多く聞かれた。

次回のセミナーは、2020年3月8日(日曜日)に「大阪府立大学 I-Site なんば」で開催される予定です。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー(自然科学系、人文・社会学系)、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際(海外団体資料・海外学術誌)、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>